

30年の記録



菰野町消防本部は昭和60年の発足から30年を迎えました。これまでの出来事を写真で振り返ります。

三重県防災航空隊により撮影
平成26年9月10日
於：菰野町消防本部とその周辺

菰野消防のあゆみ

明治27年(1894)

消防制度が統一され、当時の菰野村、鶴川原村、竹永村、朝上村、千種村の5村に消防組が組織される。

昭和3年(1928)

町制施行により菰野村が菰野町となる。

昭和14年(1939)

警察消防体制の確立により5町村の消防組が警防団に改められる。

昭和23年(1948)

消防組織法の施行により5町村の警防団が消防団として組織される。

昭和30年(1955)

4. 町村合併促進法の制定により朝上村と千種村が合併し、朝明村となり朝明村消防団が組織される。

昭和31年(1956)

9. 菰野町と鶴川原村、竹永村が合併し菰野町となり、菰野町消防団、朝明村消防団の2団となる。

昭和32年(1957)

1. 菰野町と朝明村が合併し菰野町となり、同時に菰野町消防団(団員数159名)に統一され菰野分団、鶴川原分団、竹永分団、朝上分団、千種分団の5分団で組織される。

昭和41年(1966)

7. 湯の山地区自警団が湯の山分団となり、全6分団となる。

昭和43年(1968)

1. 菰野町役場に本部班が設置される。

昭和58年(1983)

4. 本部班が本部分団となり、全7分団となる。
7. 三重県消防操法大会に本部分団が出場し、優勝する。
- 9.30 町議会に常備消防特別委員会設置。

昭和59年(1984)

3. 5 自治省消防庁より昭和59年度における消防本部及び消防署義務設置町村政令指定(内容)を受ける。
7. 三重県消防操法大会に朝上分団が出場し、優勝する。
- 7.19 消防庁舎建設工事着工。
- 8.24 日本消防協会より救急車(2B型)の寄贈を受ける。
- 10.21 役場庁舎において救急業務開始。(総務課消防防災係16名)

昭和60年(1985)

- 1.31 消防庁舎完成。(コミュニティ防災センターを併設)
- 2.14 消防庁舎において試行業務開始。
- ※ 4.1 菰野町消防本部・消防署発足。
消防本部に消防課、予防課を置き、消防署に警防課を置く。
定数31名 車両 5台
- 4.2 消防庁舎竣工式及び開署式。

昭和61年(1986)

- 3.25 ポンプ車(CD-I型)購入。
- 11.19 普通貨物自動車(4WD)購入。

昭和62年(1987)

- 2.26 はしご車(30m級)購入。
- 10.14 (社)日本損害保険協会より救助工作車の寄贈を受ける。
- 10.28 広報車購入。

昭和63年(1988)

- 4.12 三重県消防職員意見発表会にて最優秀賞を獲得。
- 4.21 東海支部消防職員意見発表会にて優秀賞を獲得。
- 7.27 消防救助技術東海地区指導会水上の部(溺者救助)にて入賞。
- 8.19 全国消防救助技術大会水上の部(溺者救助)にて入賞。

平成元年(1989)

- 1.24 救急車(2B型)購入。
- 4.18 菰野ライオンズクラブより広報車の寄贈を受ける。

平成2年(1990)

- 8.2 消防救助技術東海地区指導会水上の部(溺者救助)にて入賞。
- 8.24 全国消防救助技術大会水上の部(溺者救助)にて入賞。
- 10.12 全国消防操法大会に朝上分団が出席し、優良賞を獲得。

平成4年(1992)

- 4.10 三重県消防職員意見発表会にて最優秀賞を獲得。
- 4.23 東海支部消防職員意見発表会にて優秀賞を獲得。

平成5年(1993)

- 12.24 訓練塔敷地造成工事開始。
菰野町の婦人消防隊が全国婦人消防操法大会に出席する。

平成6年(1994)

- 4.1 菰野町職員定数条例(消防職員)改正。(定数33名)
- 4.8 三重県消防職員意見発表会にて最優秀賞を獲得。
- 4.27 東海支部消防職員意見発表会にて優秀賞を獲得。
- 10.13 全国消防操法大会に菰野分団が出席し、敢闘賞を獲得。

平成7年(1995)

- 2.16 水槽付ポンプ車(水-I A型)購入。
- 3.18 訓練塔竣工式。
- 12.22 消毒室完成。

平成8年(1996)

- 3.18 (社)日本損害保険協会より高規格救急車の寄贈を受ける。
- 4.22 緊急消防援助隊旗の伝達を受ける。
- 12.13 指令車購入。
- 12.20 菰野町職員定数条例(消防職員)改正。(定数40名)

平成9年(1997)

- 2.14 第49回日本消防協会定例表彰式において特別表彰「まとい」を受章する。
- 4.1 菰野町防災行政無線による広報を開始。
- 5.15 救急救命士が誕生。
- 8.8 三重県消防操法大会に鶴川原分団が出場する。

平成10年(1998)

- 2.4 ポンプ車(CD-I型)購入。
- 4.1 救急救命士業務の運用を開始。
- 10.15 携帯電話による119番通報受信業務を開始。
- 11.24 積載車(4WD)購入。

平成11年(1999)

- 1.21 広報車購入。
- 6.2 救急救命士24時間体制開始。
- 8.19 全国消防救助技術大会陸上の部(ロープブリッジ渡過)に出場。

平成12年(2000)

- 4.14 三重県消防職員意見発表会にて優秀賞を獲得。
- 4.20 東海支部消防職員意見発表会にて優秀賞を獲得。

平成13年(2001)

- 3.7 高規格救急車購入。
- 3.10 新通信指令室の運用を開始。

平成14年(2002)

- 4.1 消防職員服制改正。

平成15年(2003)

- 8.27 全国優良消防職員表彰受賞。
- 12.6 救急医療功労者知事表彰受賞。

平成16年(2004)

- 4. 1 三重県防災航空隊へ職員1名を派遣(3年間)。
- 9. 3~4 三重県緊急消防援助隊野営訓練及び合同訓練を菰野町で実施。

平成17年(2005)

- 8. 3 救急救命士1名が気管内挿管講習及び実習修了。
- 8. 8 携帯119番直接受信開始。
- 10. 1 三重県内消防相互応援協定に基づく境界付近の応援に関する覚書を締結。

平成18年(2006)

- 2.22 高規格救急車購入。
- 7.13 救急救命士1名が薬剤投与追加講習及び実習修了。
- 7.22 三重県消防操法大会に竹永分団が出席し、準優勝する。

平成19年(2007)

- 1.30 水槽付ポンプ車(水-I A型)購入。
- 8.22 全国消防救助技術大会陸上の部(ロープブリッジ渡過)にて入賞。

平成20年(2008)

- 3.14 救助工作車購入。
- 3~9 救急救命士3名が薬剤投与追加講習及び実習修了。
- 4.11 三重県消防職員意見発表会にて最優秀賞を獲得。
- 4.17 東海支部消防職員意見発表会にて優秀賞を獲得。
- 8.28 全国優良消防職員表彰受賞。
- 12.12 指揮車購入。

平成21年(2009)

- 4. 1 三重県消防学校教官として職員1名を派遣(3年間)。
- 6.25 救急救命士1名が薬剤投与追加講習及び実習修了。
- 8. 1 Eメール119番通報の運用開始。
- 11.30 耐震性貯水槽第1号が完成。

平成22年(2010)

- 4. 9 三重県消防職員意見発表会にて最優秀賞を獲得。
- 4.16 東海支部消防職員意見発表会にて優秀賞を獲得。
- 12. 2 高規格救急車購入。

平成23年(2011)

- 4.27 火災時における消防活動業務の協力に関する協定を締結。

平成24年(2012)

- 4. 1 菟野町職員定数条例(消防職員)改正。(定数46名)
- 4. 1 三重県消防学校教官として職員1名を派遣(3年間)。
- 4.13 三重県消防職員意見発表会にて最優秀賞を獲得。
- 4.20 東海支部消防職員意見発表会にて優秀賞を獲得。
- 8. 1 位置情報通知システム(統合型)導入。
- 12.27 広報車購入。

平成25年(2013)

- 8.21 全国優良消防職員表彰受賞。
- 11.18 救急医療功労者知事表彰受賞。

平成26年(2014)

- 3.24 はしご車購入。
- 11. 8 全国消防操法大会に朝上分団が出場し、敢闘賞を獲得する。
- 12. 5 ポンプ車(CD- I 型CAFS付)購入。

歴代消防長

初代	大倉 二郎	自	昭和60年 4月 1日	至	昭和61年 3月31日
二代	田邊 正男	自	昭和61年 4月 1日	至	平成 3年 3月31日
三代	藤田 徹	自	平成 3年 4月 1日	至	平成 7年 3月31日
四代	石原 俊秀	自	平成 7年 4月 1日	至	平成11年 3月31日
五代	内田 芳隆	自	平成11年 4月 1日	至	平成13年 3月31日
六代	金津 正義	自	平成13年 4月 1日	至	平成16年 3月31日
七代	秦 隆	自	平成16年 4月 1日	至	平成18年 4月27日
八代	増田 幸生	自	平成18年 5月 1日	至	平成19年 3月31日
九代	川嶋 正典	自	平成19年 4月 1日	至	平成21年 3月31日
十代	内田 眞伸	自	平成21年 4月 1日	至	平成25年 3月31日
十一代	白木 康裕	自	平成25年 4月 1日	現	職

1985~1991

1985 昭和60年
消防庁舎完成
菰野町消防本部、消防署
が発足し職員31名、車
両5台で業務を開始しま
した。



1987 昭和62年
救助工作車寄贈を受ける
(社)日本損害保険協会
より寄贈されたこの車両
は後部にクレーンを備え
当時最新の救助資器材を
積載し、現場で活躍しま
した。



1988 昭和63年
 全国消防救助
 技術大会出場
 全国消防救助技術大会に
 出場し、溺者救助部門に
 て入賞しました。



1989 平成元年
 救急車の更新
 ボディは開署から使用し
 ている救急車と同タイプ
 のものを採用し、この車
 両から車内に携帯電話が
 装備されました。



1990 平成2年
 朝上分団全国大会で活躍
 朝上分団が消防操法県大
 会において優勝し、全国
 大会で見事に優良賞を獲
 得しました。



火災予防活動に一役
 消防自動車写生大会に加
 え菰野町で初の防火習字
 競書会を開催しました。



1992～1997

1992 平成4年
消防職員意見発表会
三重県消防職員意見発表会において最優秀賞を獲得し、東海地区大会に出場しました。



1993 平成5年
他機関との活動
県防災ヘリコプター運行開始に伴い応援協定が締結されました。菰野町内では主に山岳救助活動で連携した活動を実施しています。



婦人消防隊全国大会へ
菰野町の婦人消防隊が三重県を代表し、全国婦人消防操法大会に出場しました。



1994 平成6年
普通救命講習会始まる
応急手当の普及、救命率の向上を目的に菰野町でも町民を対象とした講習会が開催されています。



菰野分団全国大会で活躍
菰野分団が消防操法大会町大会、県大会において優勝し、全国大会でも見事に敢闘賞を獲得しました。



1995 平成7年
訓練塔竣工

4階建て鉄筋コンクリート造のこの施設は火災、救助等様々な想定の実訓練を行うことが可能となりました。



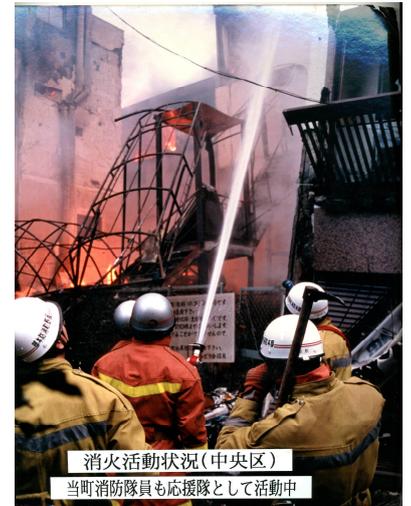
阪神淡路大震災応援出動

1月17日早朝に発生したこの地震は兵庫県を中心に大きな被害を与えました。

当町は翌18日から先着隊3名、後着隊3名の延べ6名を神戸市に派遣して人命救助、消火活動を行いました。



災害発生状況(長田区若松町付近)



消火活動状況(中央区)

当町消防隊員も応援隊として活動中

1996 平成8年
高規格救急車の導入

これまでの救急車と比較し、車両性能、装備が大きく向上し、救急活動に大きく貢献しました。



1997 平成9年
菰野町消防団
特別表彰受賞

菰野町消防団はこれまでの災害活動、訓練実績が評価され、第49回日本消防協会定例表彰式において特別表彰「まとい」を受賞しました。



1998~2006

1998 平成10年
救急救命士による
救急業務開始
救急救命士の資格を取得
した職員が4月1日より
救急車に乗車し、高度な
救命処置が可能となりま
した。



1999 平成11年
全国消防救助
技術指導会出場
全国消防救助技術指導会
ロープブリッジ渡過部門
に出場しました。



2001 平成13年
高規格救急車の更新
高規格救急車を新たに更
新し、救命処置のより一
層の拡充を図りました。



通信指令室大幅更新
発信地表示システム等の
最新システムの導入によ
り現場特定時間の短縮、
また機械化されること
で業務の効率化がなされ
ました。



2004 平成16年
菟野町での緊急消防
援助隊合同訓練
消防本部庁舎前において
三重県下消防本部が集結
し野営訓練を実施しまし
た。



2005 平成17年
建物火災
住宅、倉庫等計6棟に渡
る火災が発生し、消防車
両12台、消防職団員1
21名が出場し、消火活
動に当たりました。



2006 平成18年
住宅用火災警報器の設置
義務化
菟野町火災予防条例の一
部改正が行われ、住宅用
火災警報器の設置が義務
化されました。



2007～2011

2007 平成19年
全国消防救助技術指導会出場
 全国消防救助技術指導会に出場し、ロープブリッジ渡過部門にて入賞しました。



水槽付きポンプ車の更新
 車両に1.5tの水槽を積載し、火災現場に到着後すぐに放水ができる体制が整えられています。



2008 平成20年
救助工作車の更新
 オールシャッター式のボディでクレーン、大型照明はリモコン操作が可能となりました。従来の三つ打ちロープと併用する形でスタティックロープが積載されました。



集中豪雨被害
 この豪雨で人的被害は幸いありませんでしたが、町内各所に土砂災害、道路損壊などの甚大な被害を及ぼしました。町内キャンプ場では土石流等で道路が寸断されて孤立状態となり消防職員が救出活動に当たりました。



大雨、浸水や橋崩壊 岐阜・三重

孤立した「湯の山ロッジ」から救出される宿泊客＝3日午前11時13分、三重県飯野町飯野、速修待生撮影

岐阜県と三重県にまたがる湯の山ロッジは、大雨で孤立状態に陥り、約30人が救助を待っていた。三重県飯野町飯野の湯の山ロッジは、大雨で孤立状態に陥り、約30人が救助を待っていた。三重県飯野町飯野の湯の山ロッジは、大雨で孤立状態に陥り、約30人が救助を待っていた。



2009 平成21年
Eメール119緊急通報
受信開始

耳や言葉の不自由な方が
災害発生時に屋外や、外
出先から携帯電話や、パ
ソコンメールを使用して
緊急通報することが可能
となりました。



2010 平成22年
高規格救急車の更新

ストレッチャー、自動心
マッサージ器等の最新式
の資器材が導入され、よ
り高度な救命処置が可能
となりました。



2011 平成23年
東日本大震災
緊急消防援助隊三重県隊
として出動

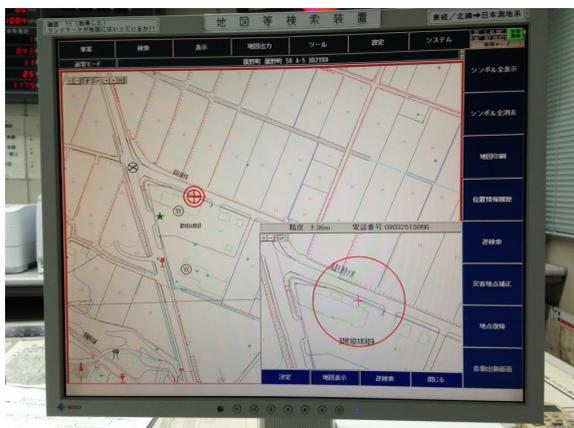
3月11日大規模な地震
が発生し、津波により東
北地方で大きな被害が発
生しました。当町は、県
内各消防本部と合同で千
葉県及び宮城県へ救急隊
を派遣し、人命救助活動
に当たりました。



2012~2015

2012 平成24年 位置情報通知システム 導入

携帯電話からの119番通報時に現場特定がしやすくなり到着までの時間短縮が更に進められました。



2013 平成25年 建物火災

住宅、車両等を巻き込んだこの火災は火の回りが早く大きな延焼火災となりました。消防車12台、消防職団員82名が出動し、消火活動に当たりました。



2014 平成26年 はしご車の更新

梯子操作の一部が自動化され、安全性と迅速性が向上しました。



朝上分団全国大会で活躍
朝上分団が、消防操法県
大会において優勝し、全
国大会でも見事敢闘賞を
獲得しました。



ポンプ車の更新

従来の水放水に加えて消
火薬剤と空気を混合させ
た泡放水も可能となり消
火効率が向上しました。

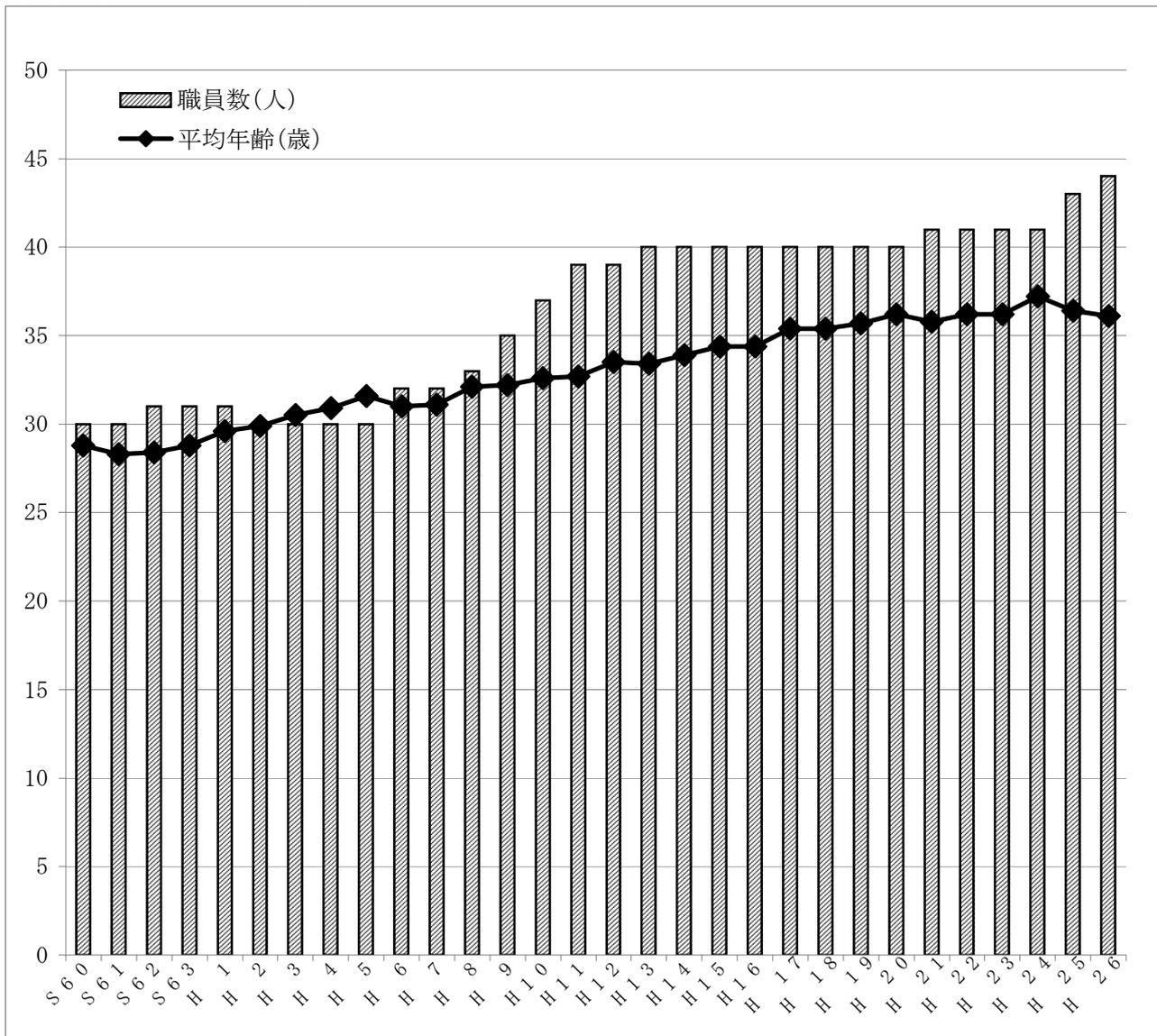


2015 平成27年 消防庁舎増築

消防職員の定員増に伴い
仮庁舎として増築しまし
た。事務、会議スペース
を設けたことで、消防署
の仮眠室、業務スペース
の拡充により緊急事態に
も万全の体制で業務に臨
みます。



職員数及び平均年齢の推移

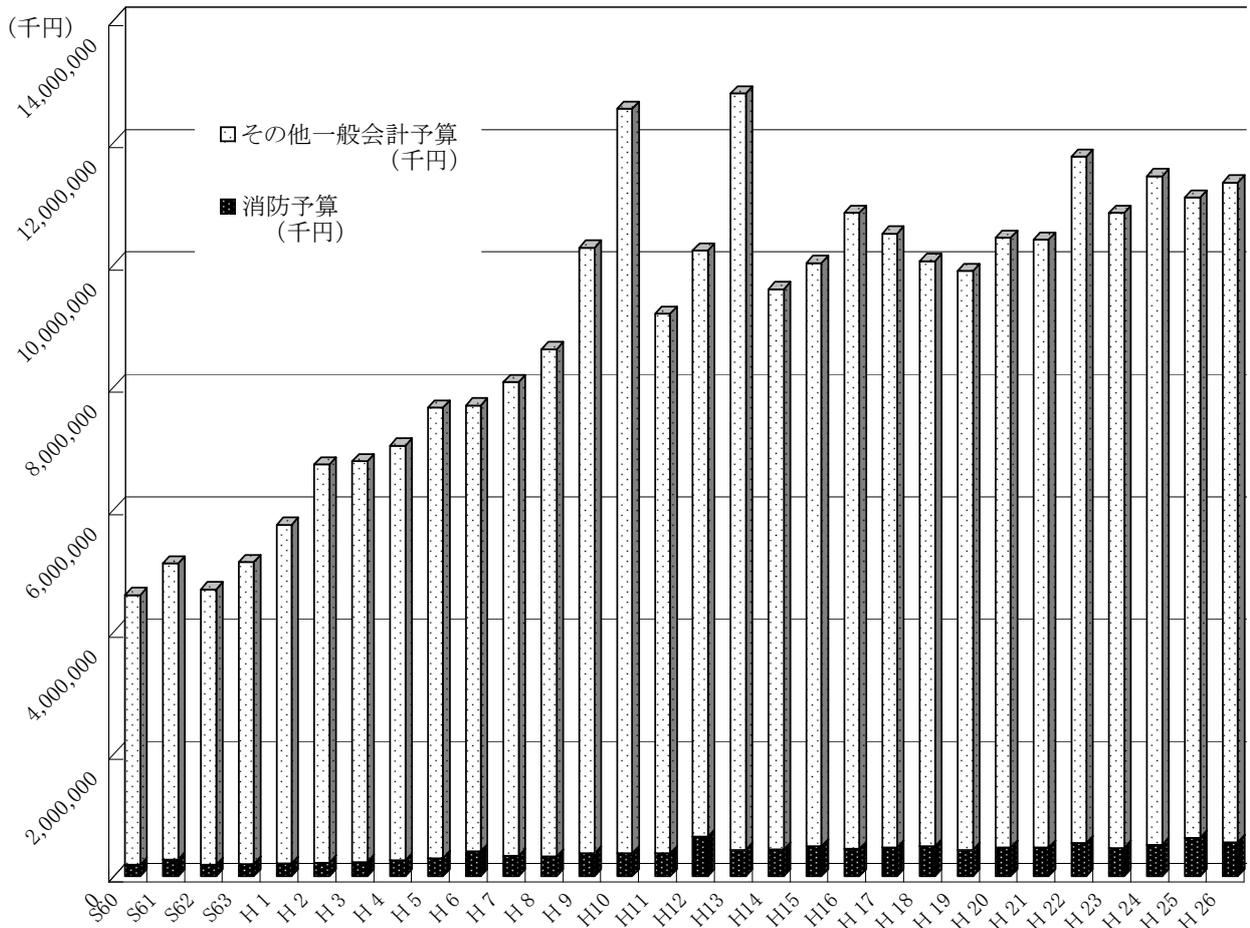


年度	S60	S61	S62	S63	H 1	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6
職員数(人)	30	30	31	31	31	30	30	30	30	32
平均年齢(歳)	28.8	28.3	28.4	28.8	29.6	29.9	30.5	30.9	31.6	31

年度	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
職員数(人)	32	33	35	37	39	39	40	40	40	40
平均年齢(歳)	31.1	32.1	32.2	32.6	32.7	33.5	33.4	33.9	34.4	34.4

年度	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26
職員数(人)	40	40	40	40	41	41	41	41	43	44
平均年齢(歳)	35.4	35.4	35.7	36.2	35.8	36.2	36.2	37.2	36.4	36.1

一般会計予算に占める消防費の割合の推移

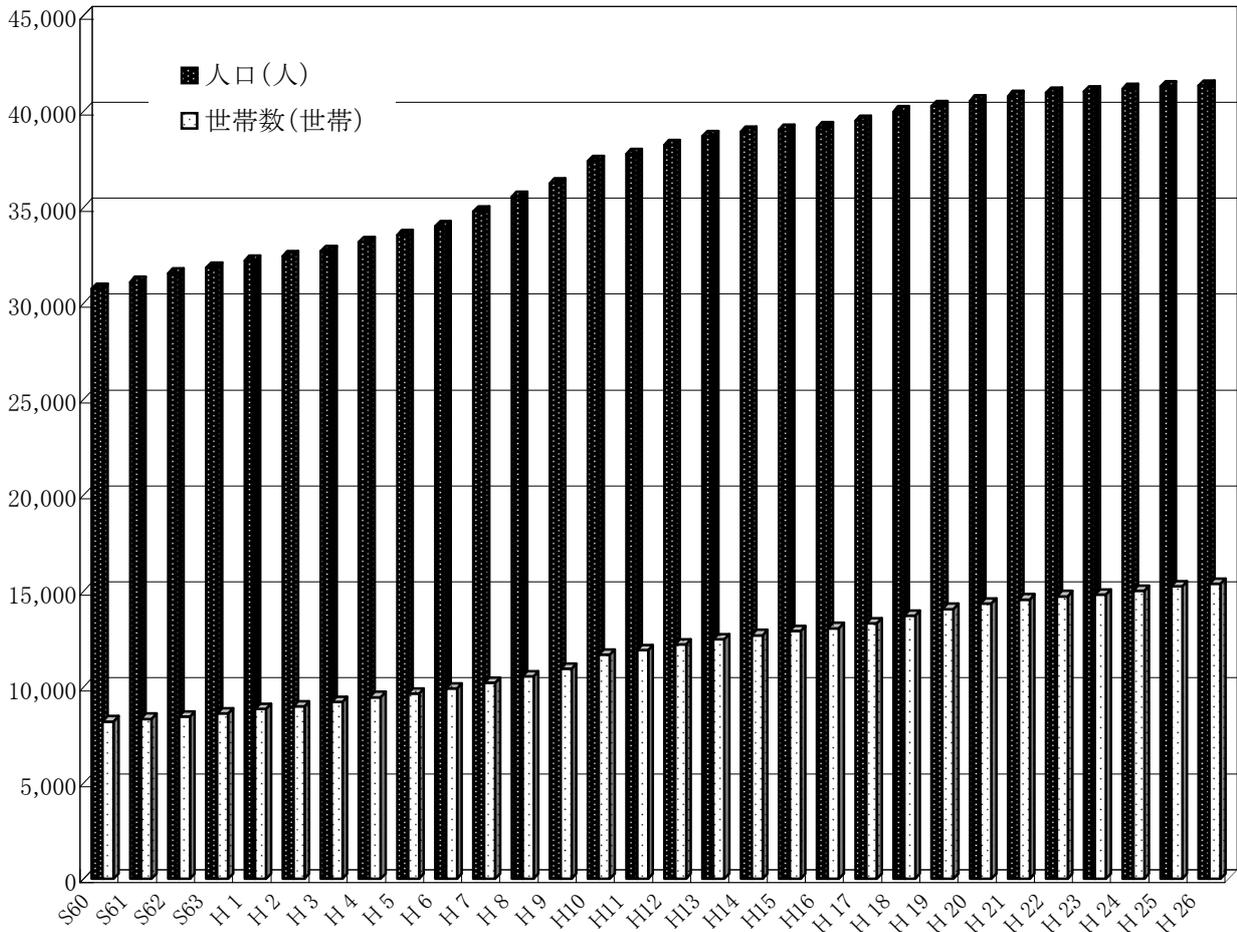


年度	S60	S61	S62	S63	H 1	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6
一般会計 予算(千円)	4,600,000	5,115,000	4,693,000	5,136,000	5,746,000	6,731,000	6,789,000	7,041,000	7,665,000	7,700,000
消防予算 (千円)	188,804	273,378	187,630	202,019	208,310	225,027	233,430	258,841	295,969	408,634
消防予算の 比率(%)	4.10%	5.34%	4.00%	3.93%	3.63%	3.34%	3.44%	3.68%	3.86%	5.31%

年度	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
一般会計 予算(千円)	8,080,000	8,619,000	10,280,000	12,550,000	9,200,000	10,230,000	12,800,000	9,600,000	10,030,000	10,850,000
消防予算 (千円)	333,362	321,098	373,523	377,508	373,343	648,950	431,349	435,551	486,794	450,158
消防予算の 比率(%)	4.13%	3.73%	3.63%	3.01%	4.06%	6.34%	3.37%	4.54%	4.85%	4.15%

年度	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26
一般会計 予算(千円)	10,510,000	10,060,000	9,900,000	10,440,000	10,412,000	11,770,000	10,850,000	11,450,000	11,100,000	11,344,000
消防予算 (千円)	468,789	489,395	432,196	465,906	470,975	543,077	465,252	513,698	630,884	557,267
消防予算の 比率(%)	4.46%	4.86%	4.37%	4.46%	4.52%	4.61%	4.29%	4.49%	5.68%	4.91%

管内人口の推移

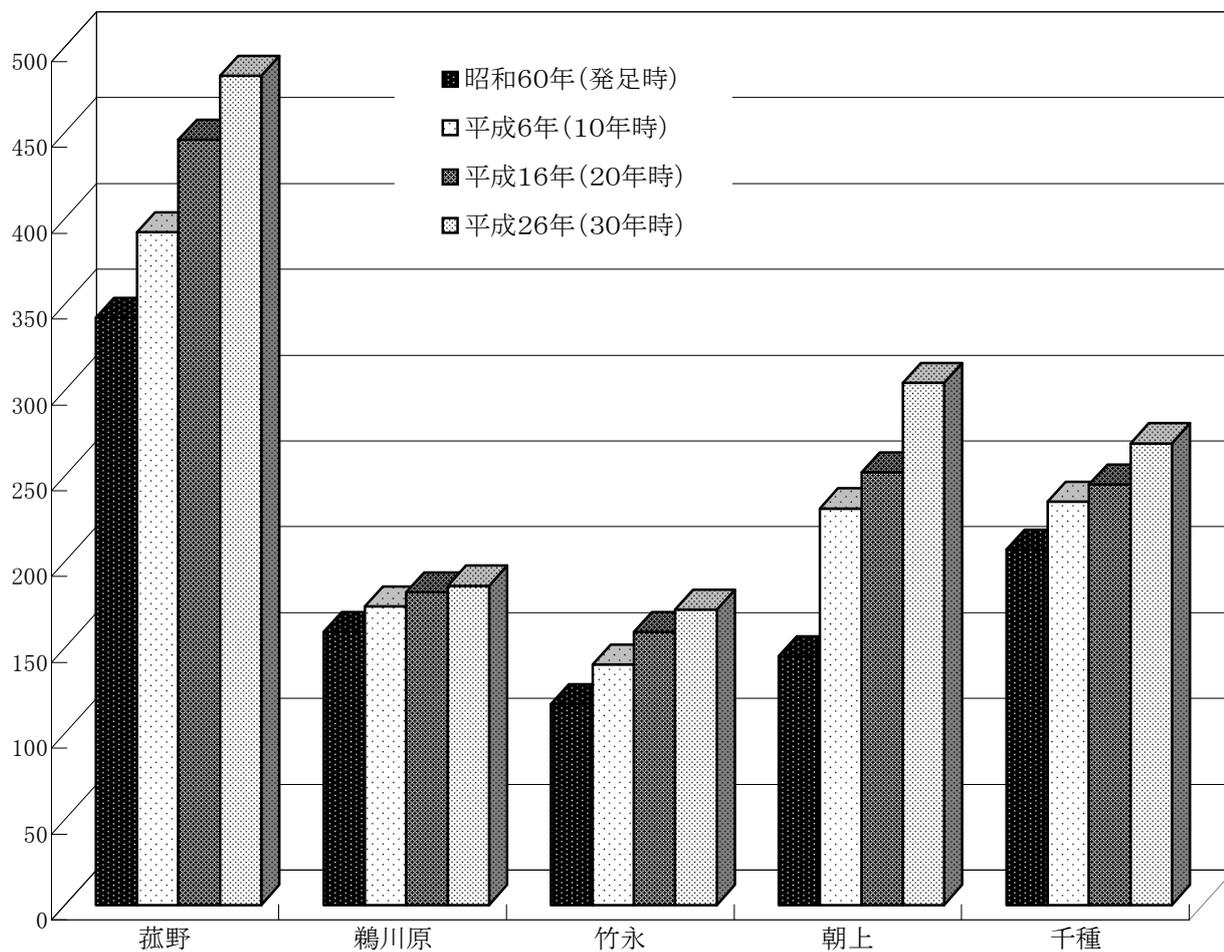


区分 \ 年	S60	S61	S62	S63	H 1	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6
人口(人)	30,760	31,099	31,546	31,863	32,218	32,443	32,709	33,184	33,546	34,015
世帯数(世帯)	8,205	8,340	8,467	8,628	8,847	8,996	9,221	9,472	9,659	9,924
一人あたりの 消防費(円)	6,138	8,791	5,948	6,340	6,466	6,936	7,137	7,800	8,823	12,013

区分 \ 年	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
人口(人)	34,769	35,547	36,239	37,402	37,785	38,229	38,713	38,939	39,047	39,155
世帯数(世帯)	10,221	10,546	10,942	11,682	11,911	12,210	12,493	12,698	12,909	13,066
一人あたりの 消防費(円)	9,588	9,033	10,307	10,093	9,881	16,975	11,142	11,185	12,467	11,497

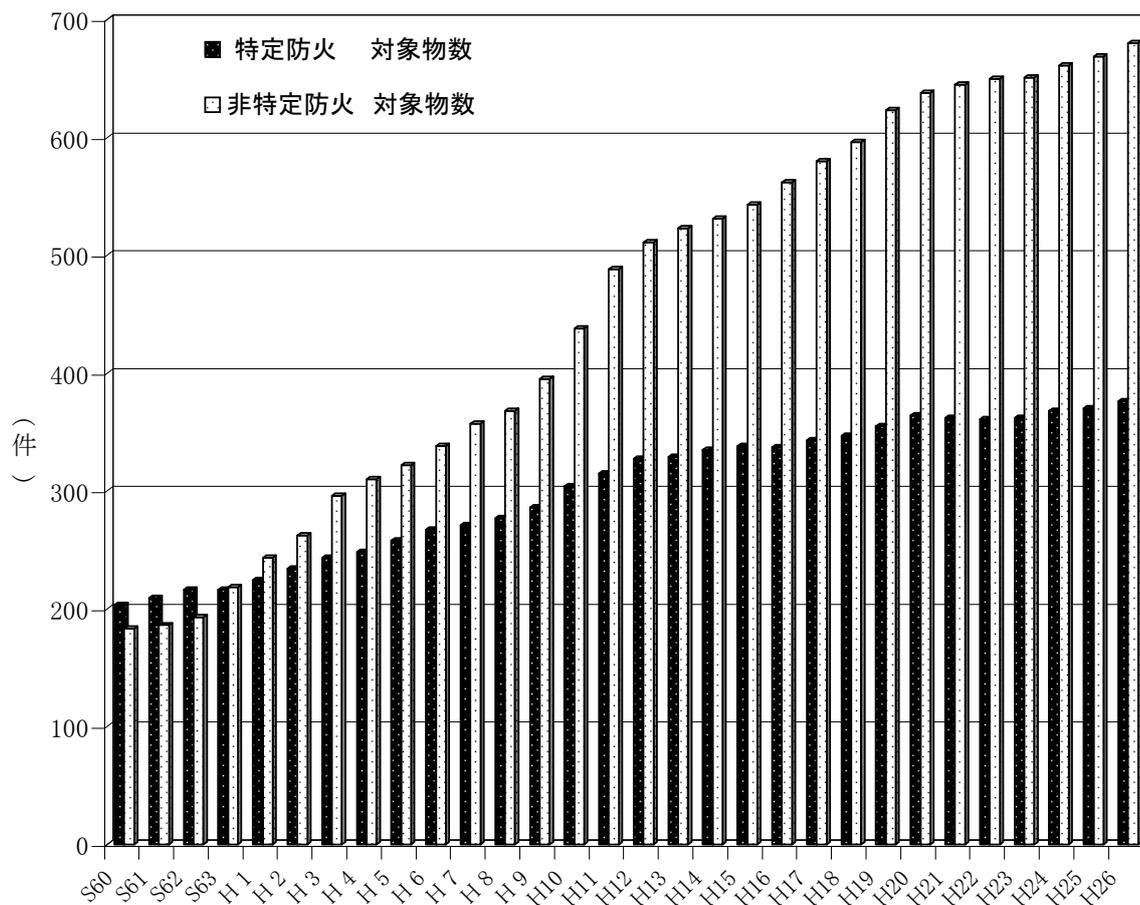
区分 \ 年	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26
人口(人)	39,494	39,989	40,274	40,550	40,784	40,977	41,025	41,171	41,311	41,329
世帯数(世帯)	13,328	13,721	14,066	14,350	14,565	14,731	14,803	15,014	15,237	15,387
一人あたりの 消防費(円)	11,870	12,238	10,731	11,490	11,548	13,253	11,341	12,477	15,272	13,484

消火栓数の推移



年 \ 地区	菰野	鵜川原	竹永	朝上	千種	合計
昭和60年(発足時)	342	159	117	145	207	970
平成6年(10年時)	392	174	140	231	235	1,172
平成16年(20年時)	446	182	159	252	245	1,284
平成26年(30年時)	483	186	172	304	269	1,414

防火対象物数の推移

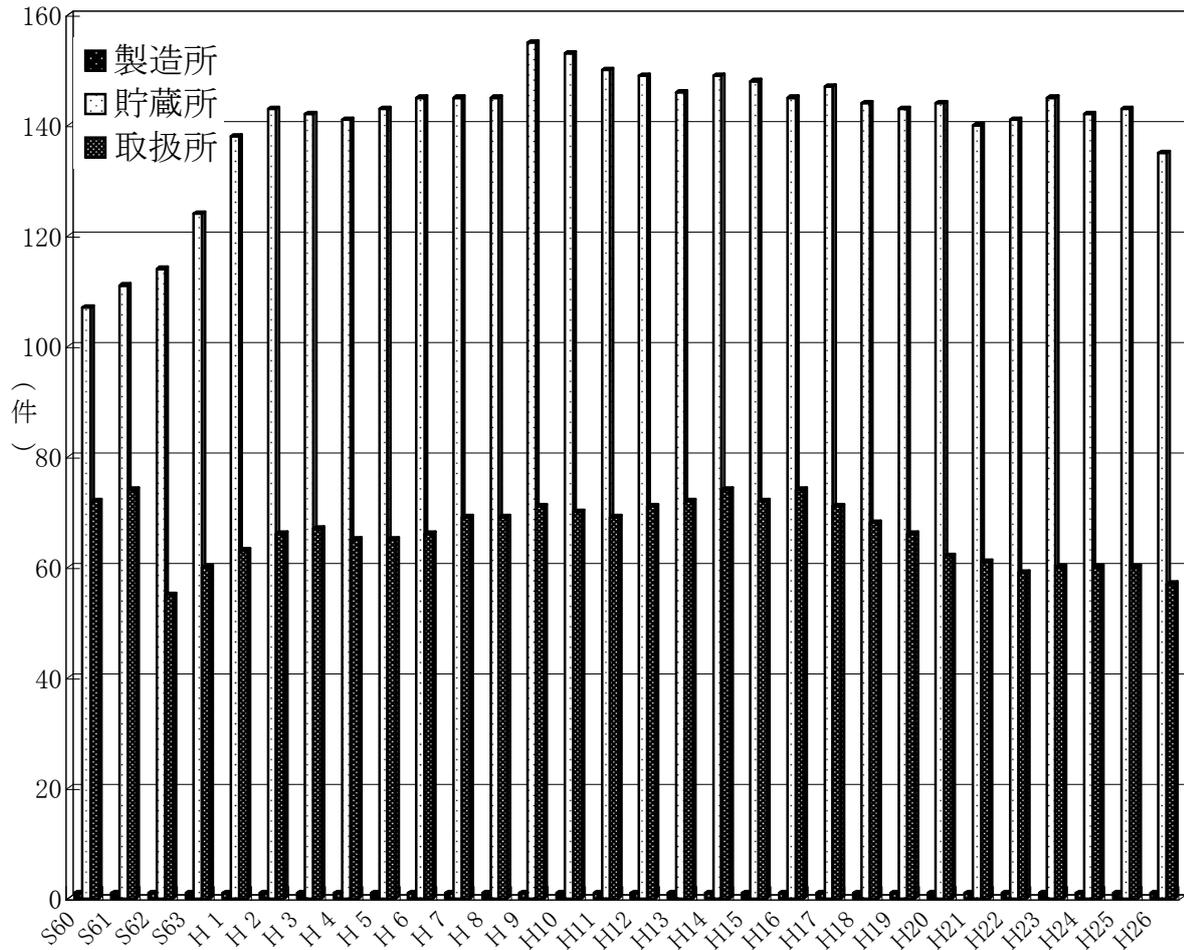


年度	S60	S61	S62	S63	H 1	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6
特定防火 対象物数	203	209	216	216	224	234	243	248	258	267
非特定防火 対象物数	183	186	193	218	243	262	296	310	322	338
合 計	386	395	409	434	467	496	539	558	580	605

年度	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
特定防火 対象物数	271	277	286	304	315	327	329	335	338	337
非特定防火 対象物数	357	368	395	438	488	511	523	531	543	562
合 計	628	645	681	742	803	838	852	866	881	899

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
特定防火 対象物数	343	347	355	364	362	361	362	368	370	376
非特定防火 対象物数	580	596	623	638	645	650	651	661	669	680
合 計	923	943	978	1002	1007	1011	1013	1029	1039	1056

危険物施設数の推移

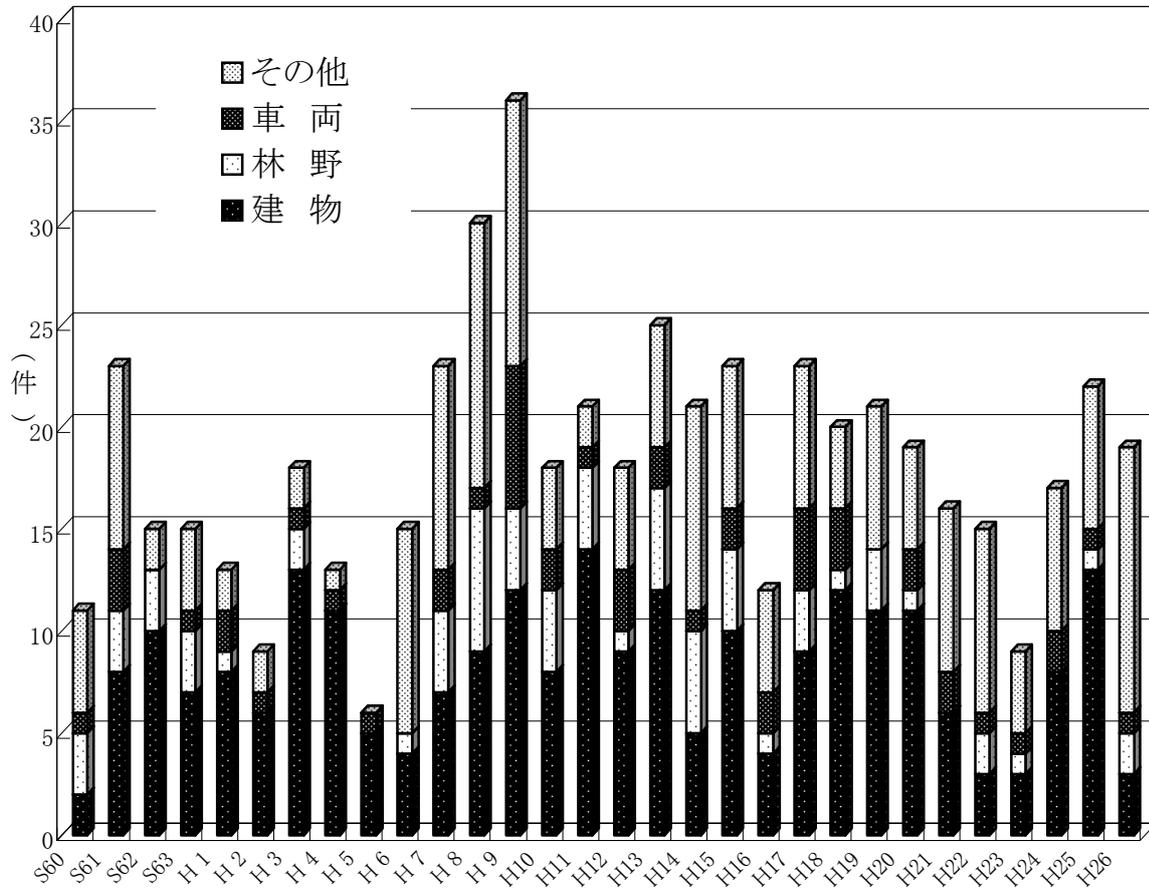


区分 \ 年度	S60	S61	S62	S63	H 1	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6
製造所	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
貯蔵所	107	111	114	124	138	143	142	141	143	145
取扱所	72	74	55	60	63	66	67	65	65	66
合計	180	186	170	185	202	210	210	207	209	212

区分 \ 年度	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
製造所	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
貯蔵所	145	145	155	153	150	149	146	149	148	145
取扱所	69	69	71	70	69	71	72	74	72	74
合計	215	215	227	224	220	221	219	224	221	220

区分 \ 年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
製造所	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
貯蔵所	147	144	143	144	140	141	145	142	143	135
取扱所	71	68	66	62	61	59	60	60	60	57
合計	219	213	210	207	202	201	206	203	204	193

火災(種別)件数の推移

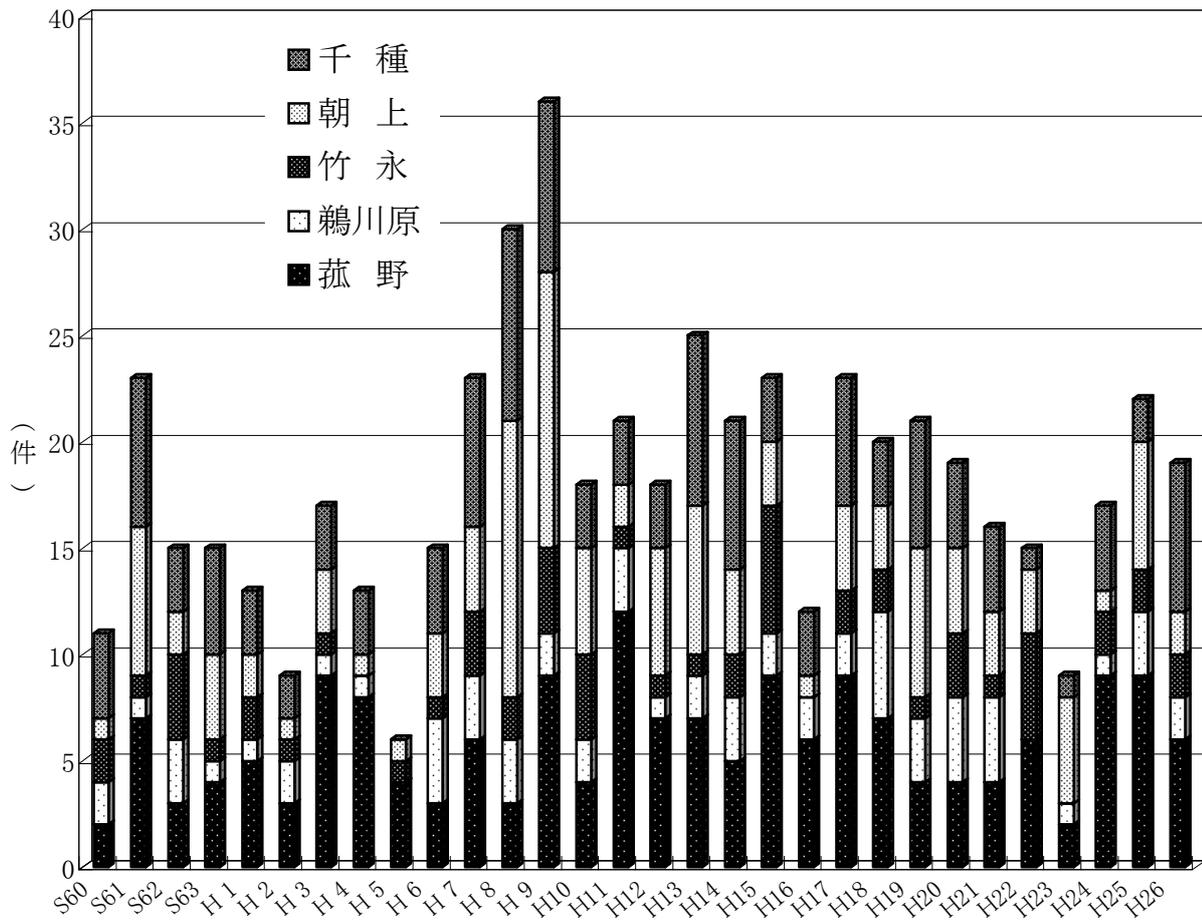


区分 \ 年	S60	S61	S62	S63	H 1	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6
建 物	2	8	10	7	8	6	13	11	5	4
林 野	3	3	3	3	1	0	2	0	0	1
車 両	1	3	0	1	2	1	1	1	1	0
その他	5	9	2	4	2	2	2	1	0	10
合 計	11	23	15	15	13	9	17	13	6	15

区分 \ 年	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
建 物	7	9	12	8	14	9	12	5	10	4
林 野	4	7	4	4	4	1	5	5	4	1
車 両	2	1	7	2	1	3	2	1	2	2
その他	10	13	13	4	2	5	6	10	7	5
合 計	23	30	36	18	21	18	25	21	23	12

区分 \ 年	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
建 物	9	12	11	11	6	3	3	8	13	3
林 野	3	1	3	1	0	2	1	0	1	2
車 両	4	3	0	2	2	1	1	2	1	1
その他	7	4	7	5	8	9	4	7	7	13
合 計	23	20	21	19	16	15	9	17	22	19

火災(地区別)件数の推移

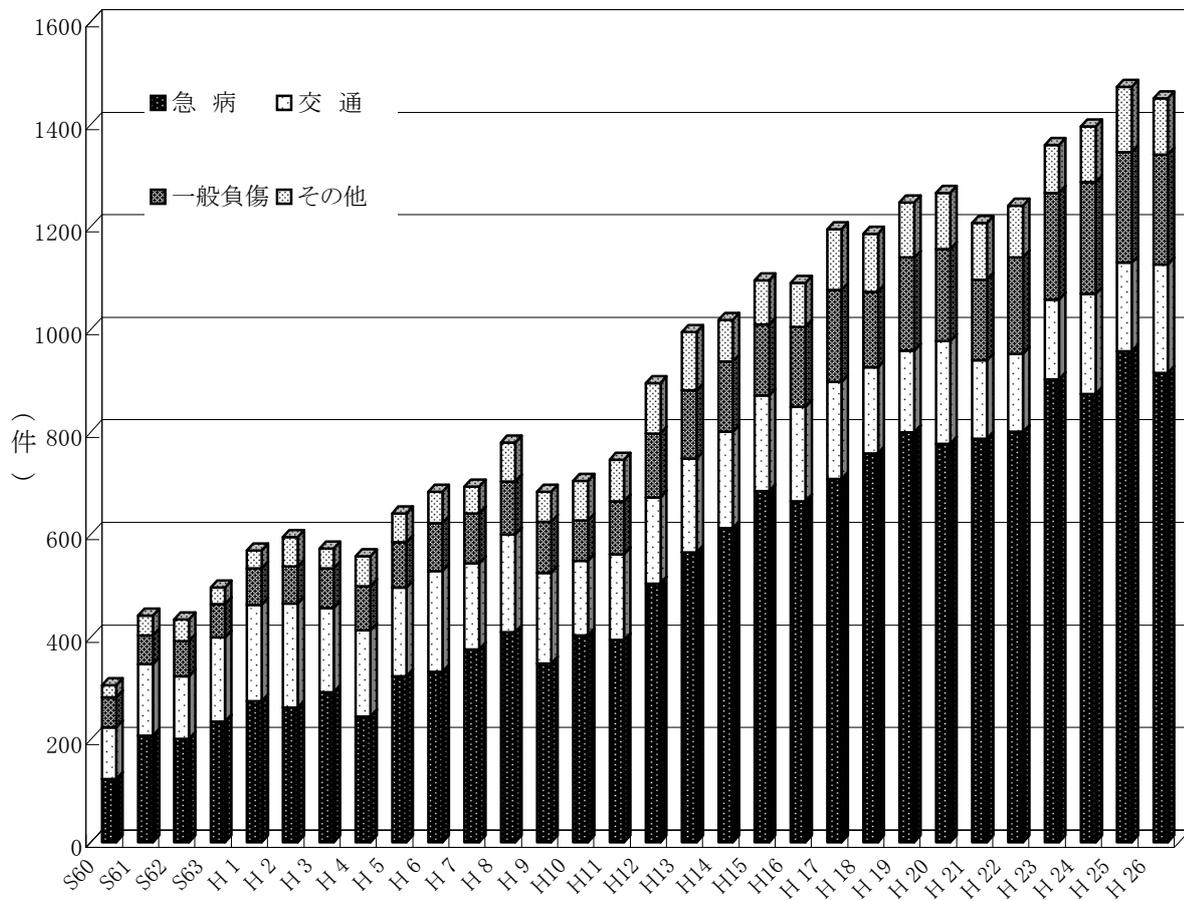


区分 \ 年	S60	S61	S62	S63	H 1	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6
菰野	2	7	3	4	5	3	9	8	4	3
鶺川原	2	1	3	1	1	2	1	1	0	4
竹永	2	1	4	1	2	1	1	0	1	1
朝上	1	7	2	4	2	1	3	1	1	3
千種	4	7	3	5	3	2	3	3	0	4
合計	11	23	15	15	13	9	17	13	6	15

区分 \ 年	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
菰野	6	3	9	4	12	7	7	5	9	6
鶺川原	3	3	2	2	3	1	2	3	2	2
竹永	3	2	4	4	1	1	1	2	6	0
朝上	4	13	13	5	2	6	7	4	3	1
千種	7	9	8	3	3	3	8	7	3	3
合計	23	30	36	18	21	18	25	21	23	12

区分 \ 年	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
菰野	9	7	4	4	4	6	2	9	9	6
鶺川原	2	5	3	4	4	0	1	1	3	2
竹永	2	2	1	3	1	5	0	2	2	2
朝上	4	3	7	4	3	3	5	1	6	2
千種	6	3	6	4	4	1	1	4	2	7
合計	23	20	21	19	16	15	9	17	22	19

救急出場件数の推移

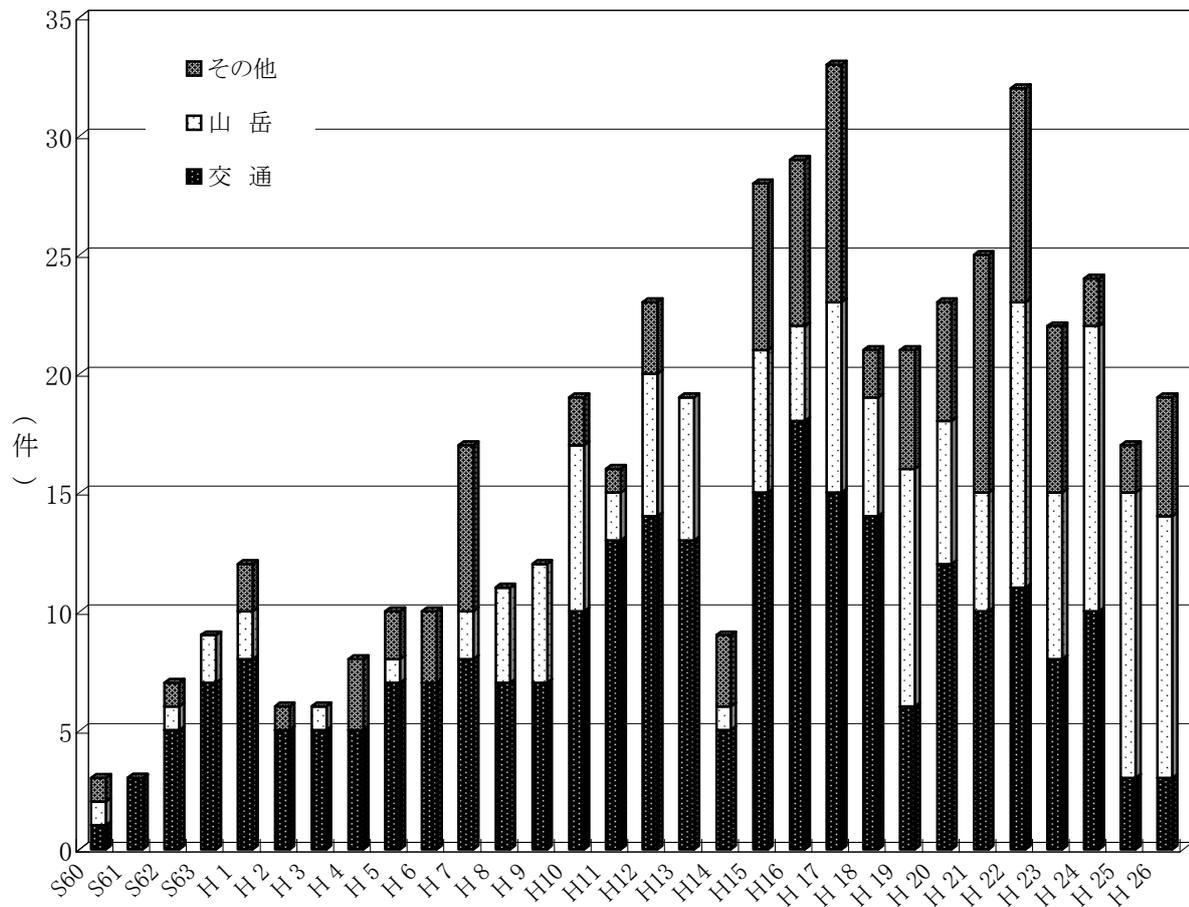


区分 \ 年	S60	S61	S62	S63	H 1	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6
急病	123	208	201	235	275	263	292	245	324	332
交通	101	139	123	164	188	203	165	168	173	197
一般負傷	58	56	68	65	71	72	77	86	88	94
その他	24	39	42	33	35	57	39	59	56	61
合計	308	442	434	497	569	595	573	558	641	684

区分 \ 年	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
急病	376	410	348	403	394	504	565	612	685	665
交通	168	190	177	146	167	168	183	188	186	184
一般負傷	97	104	100	78	104	125	134	138	139	156
その他	53	75	59	78	81	98	113	80	86	86
合計	694	779	684	705	746	895	995	1018	1096	1091

区分 \ 年	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26
急病	708	758	799	777	787	800	903	874	957	915
交通	190	169	160	201	153	153	156	195	173	212
一般負傷	179	146	181	179	157	188	208	218	216	214
その他	118	114	108	109	111	101	93	109	127	110
合計	1195	1187	1248	1266	1208	1242	1360	1396	1473	1451

救助出場件数の推移



区分 \ 年	S60	S61	S62	S63	H 1	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6
交通	1	3	5	7	8	5	5	5	7	7
山岳	1	0	1	2	2	0	1	0	1	0
その他	1	0	1	0	2	1	0	3	2	3
合計	3	3	7	9	12	6	6	8	10	10

区分 \ 年	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
交通	8	7	7	10	13	14	13	5	15	18
山岳	2	4	5	7	2	6	6	1	6	4
その他	7	0	0	2	1	3	0	3	7	7
合計	17	11	12	19	16	23	19	9	28	29

区分 \ 年	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26
交通	15	14	6	12	10	11	8	10	3	3
山岳	8	5	10	6	5	12	7	12	12	11
その他	10	2	5	5	10	9	7	2	2	5
合計	33	21	21	23	25	32	22	24	17	19